

輸入粗飼料の情勢

全酪連購買部
購買推進課

北米コンテナ船情勢

北米関連の海上運賃は依然として船腹に余剰感があり、過去最低レベルのまま推移しています。しかしながら、米国の原油先物価格が5月中旬から徐々に値上がりはじめており、今後これを理由に値上げを要請してくる可能性があります。また、世界の他航路の海上運賃を見るとヨーロッパ-アジア航路や南米-アジア航路は5月以降、値上げりを始めています。日本からの輸出向け海上運賃についても、7月積み以降の契約で若干の値上げで成約され始めているようです。これら他航路の動きは、今後の北米-アジア航路の運賃にも影響を及ぼすと考えられるため注視していく必要があります。

ビートパルプ

<米国産>

新穀の作付は5月中旬をもって全域で終了しました。4月末時点では、主産地ミネソタ州とノースダコタ州の北部で降雨が多く、作付の進捗への影響が懸念されていましたが、その後天候は回復し5月以降の進捗は順調で、例年よりやや遅めですが5月中旬にほぼ作付は終了しました。単収については今後2～3か月の天候、生育環境に大きく依存するため、しばらくは天候状況を注視していく必要があります。作付面積はほぼ前年並みと見られますが、今期の単収が例年並みと仮定すると、昨年の単収は例年より多かったことから、生産量は前年と比べるとやや減少する可能性があります。順調に生育が進めば、収穫は例年通り9月1週目ころからと予想されています。

アルファルファ

<ワシントン州>

今春は温暖な気候であったため、コロンビアベースン南部では例年よりも2週間ほど早い4月下旬から刈取りが始まりました。5月5日頃からはコロンビアベースン全域で刈取りが本格化しました。刈取り開始後しばらくは好天が続いていましたが、5月14-15日および5月20-21日に降雨が記録され、降雨被害が発生しています。コロンビアベースン全体の1番刈の収穫は約90%まで進んでいます。サブラ

イヤーや地域によって、史上最悪レベルの降雨被害であった昨年並みに上級品の確保が難しいと報告もあれば、昨年に比べ良品を確保できたとの報告もあり、現時点で1番刈は50-60%程度が雨当たりと見られますが、作柄や品質状況の全容を見極めるには、もう少し時間が必要と思われます。

現在2番刈が生育中ですが、6月上旬には100°F(38°C)を超える予報も出ているため、今後生育が一気に進み刈取りのスケジュールが早まる可能性があります。

<オレゴン州>

オレゴン州クラマスフォールズでは5月20日に降雨があったものの、刈取りは一部圃場で5月下旬からスタートしており、現時点では6月上旬まで降雨予報が出ていないため、収穫のコンディションは良好なものになると期待されています。気温も5月の生育期には80°F(26°C)以下と高温で推移することなく、品質面でも良品を期待できる環境にあります。また、内陸のクリスマスバレーでは5月20日、21日に降雨があり、その後数日60°F(15°C)以下の日がありましたが現在は例年並みの気温に戻っています。このエリアでは6月10日前後からの刈取りが予想されています。



(クラマスフォールズ生育状況 4月中旬撮影)

<カリフォルニア州>

カリフォルニア州北部では、一部地域で1番刈の刈取り直後の降雨により、輸出向けの上級品の発生は非常に限定的となっています。現在2番刈が始まっていますが、こちらも降雨による被害が多い模様です。

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは3番刈が終盤を迎えており、早い圃場では4番刈が始まっています。5月16日~17日の3番刈収穫時に降雨と強風に

見舞われており、この時期に収穫された一部の圃場では降雨被害が発生しているようですが、雨を避けられた圃場からは高成分のものが多く発生しているようです。しかしながら、その後最高気温は100°F（約38℃）程まで上昇し始めており、現在収穫中のものは1番刈や2番刈に比べて低成分のものが多くなっています。この地域からの出荷は依然として中国向けが主となっていますが、日本や韓国向けの出荷も徐々に増えているようです。産地相場は昨年と同時期に比べ軟化傾向にあります。

＜ユタ州＞

ユタ州では例年6月上旬から刈取りが開始されますが、今年は例年よりも春先の気候が温暖であったため生育状況が早く、一部圃場では例年よりも1週間ほど早い5月末頃から刈取りがスタートする見込みです。生育状況は良好で、収穫期間に降雨がなければ良品の生産が期待されます。

チモシー 米国産

コロンビアベースンでは順調に気温が上昇しており、5月23日の週から冬季屋内燻蒸を終え、屋外燻蒸が解禁となりました。気温の上昇で生育も順調に進み、予想よりも早く、コロンビアベースン南部では5月23日の週の前半、中部でも同週の後半から刈取りが開始されています。気温は5月最終週から80°F（26℃）以上で、天候も安定との予報となっており、今後も順調に収穫が進むことが期待されています。

キティタスバレーでも5月最終週から刈取りが開始されています。こちらも例年より数週間早いスケジュールとなっています。今後10日間は天候に恵まれる予報のため、コロンビアベースン同様、順調に収穫作業が進むものと思われます。総じて昨年よりは作柄は良化する可能性が高くなっています。

2015年産で大量に発生した中級品は、現地在庫は徐々に消化されてきているものの、まだ一部サプライヤーでは余剰を抱えているようです。このため、産地での値崩れは続いており、日本へ輸入量も一時的に増え市場価格の混乱も一部地域では解消していないようです。

カナダ産

主産地アルバータ州の南部レスブリッジでは、生育は順調な模様で7月1週目頃から刈取りが開始される見込みです。冬場は乾燥傾向でしたが、春先からは適度な降雨もあり、5月に入ってから気温も上昇してきているようです。

中部クレモナでは、5月に入っても早魃状態が続いていましたが、5月3週に待望の降雨がありました。当地域は非灌漑地域のため、引き続き生育期の天候は注視して

いく必要がありそうです。2016年産カナダチモシーの作付面積は、南部レスブリッジで微増、中部クレモナで横ばいと見られておりますので、天候および生育が順調であれば全体の生産量の増加が期待されます。

一方で、日本の1～4月の輸入実績は、24,515トンと、米国産チモシーの価格の混乱から前年比67%と大きく下げています。米国産を含めた新穀の作柄や価格によって需要が回帰するか注目されます。

スーダングラス

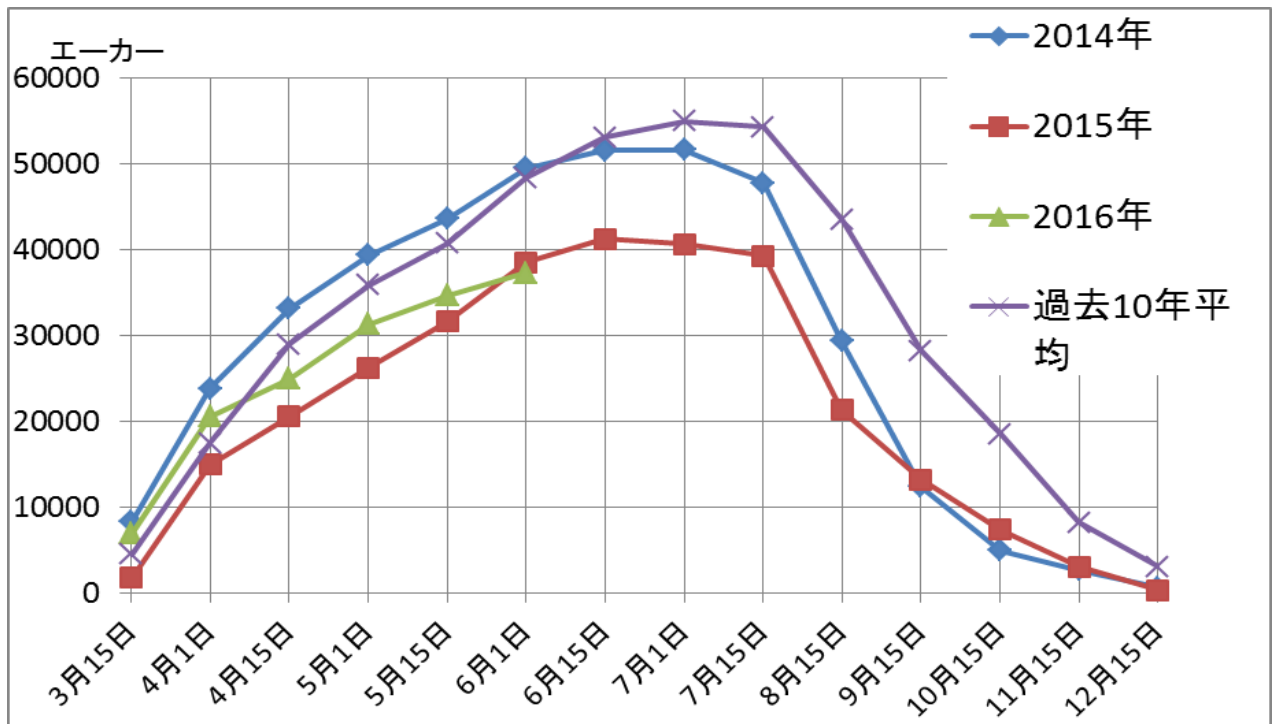
インペリアルバレーでは5月中旬から16年産スーダングラスの1番刈りの収穫が開始されました。5月下旬の時点で一部ではベーリングも始まっています。



(インペリアルバレー 刈り取り後のスーダン圃場 5月中旬撮影)

現地では5月6日と5月16日夜から5月17日にかけて降雨が観測されました。5月6日の雨の影響は軽微と言われていますが、16日～17日の降雨は局地的に降雨量が多く、風も強かったようです。この天候による影響で、雨あたりや倒伏が一部で発生したとの情報もありますが、局地的な被害で大勢には影響がないと見ています。

5月16日時点の作付面積は34,651エーカーで前年同月比109%でしたが、6月1日発表の作付面積は37,268エーカーで小麦の高騰で早播きスーダンが激減した前年の同月と比べても97%と急激に作付のペースは鈍化して来ています。生産農家にとって新穀の価格動向に期待が持てないことが要因と思われる。最終的な作付面積は早播きが大幅に減少した15年産並みの40,000エーカー程度に留まると多くのサプライヤーは予想しているようです。16年産の価格はまだ手探りの状況で、全体の相場感が見え始めるのはもう少し先になりそうです。



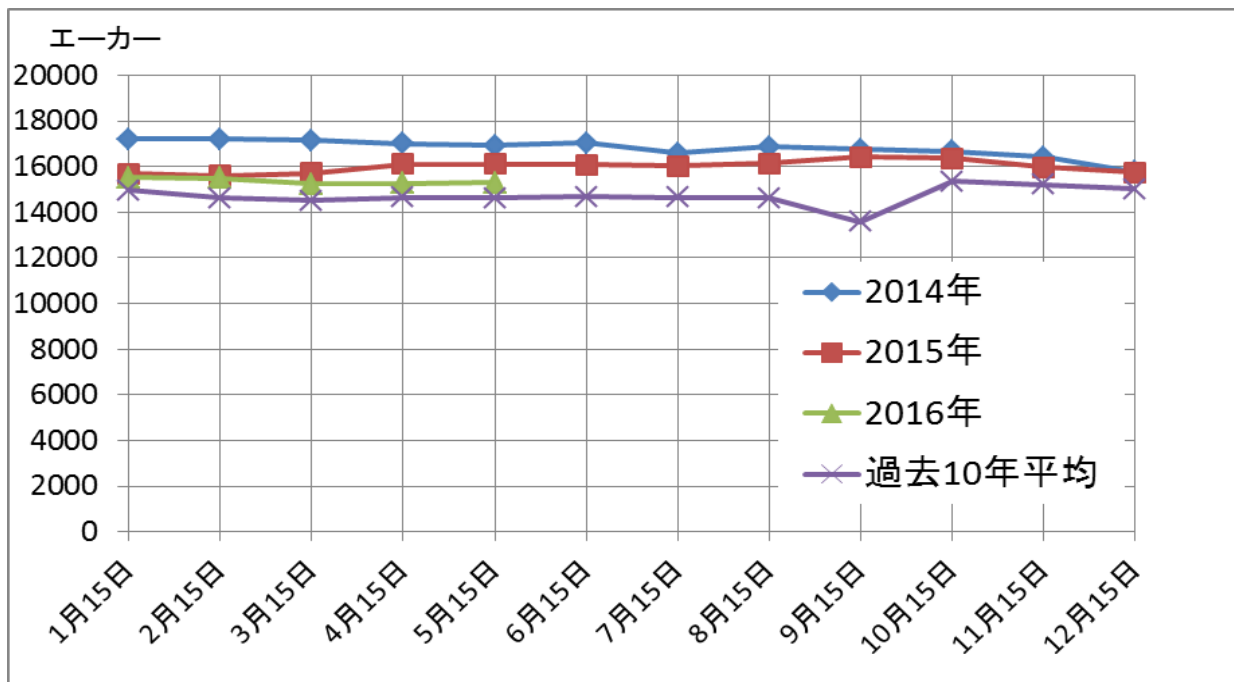
| | 3月15日 | 4月1日 | 4月15日 | 5月1日 | 5月15日 | 6月1日 | 6月15日 | 7月1日 | 7月15日 | 8月15日 | 9月15日 | 10月15日 | 11月15日 | 12月15日 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 2014年 | 8236 | 23795 | 33118 | 39364 | 43597 | 49495 | 51586 | 51594 | 47756 | 29337 | 12376 | 4879 | 2646 | 568 |
| 2015年 | 1752 | 14942 | 20561 | 26214 | 31644 | 38502 | 41260 | 40633 | 39247 | 21329 | 13150 | 7345 | 2998 | 278 |
| 2016年 | 6874 | 20497 | 24929 | 31326 | 34651 | 37268 | | | | | | | | |
| 過去10年平均 | 4428 | 17440 | 28980 | 35873 | 40716 | 48350 | 53059 | 54981 | 54247 | 43518 | 28231 | 18479 | 8142 | 3033 |

2016年産 インペリアルバレー スーダン作付面積動向(2016年6月1日時点)

クレイングラス(クレインは全酪連の登録商標です)

16年産クレイングラスの1番刈は早い圃場では4月下旬から始まり、5月末時点では終盤を迎えており、早い圃場では2番刈が始まろうとしています。5月中旬の降雨の影響は限定的なようで、現在のところ収穫の進捗は良好なようです。一方で、生産農家にとって魅力ある価格ではなくなりつつあるため生産意欲が減退し始めており、夏以降、転作や休耕に入る圃場が増え、生産量が減少する可能性が示唆されています。韓国からの引き合いも、昨年に比べ強いと言われているため、作付面積や生産量の減少が産地価格にどのように影響していくか注目されます。

5月16日時点の作付面積は15,295エーカーで3月と4月とほぼ変わらず、前年同月比95%となっていますが、前述の通り夏以降の作付面積の動向が16年産を占う大きな要素になりそうです。



| | 1月15日 | 2月15日 | 3月15日 | 4月15日 | 5月15日 | 6月15日 | 7月15日 | 8月15日 | 9月15日 | 10月15日 | 11月15日 | 12月15日 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|
| 2014年 | 17192 | 17192 | 17140 | 17005 | 16930 | 17038 | 16578 | 16873 | 16745 | 16659 | 16413 | 15786 |
| 2015年 | 15691 | 15605 | 15724 | 16111 | 16111 | 16086 | 16026 | 16152 | 16430 | 16372 | 15974 | 15746 |
| 2016年 | 15526 | 15501 | 15234 | 15255 | 15295 | | | | | | | |
| 過去10年平均 | 14955 | 14610 | 14515 | 14643 | 14628 | 14676 | 14652 | 14632 | 13596 | 15361 | 15224 | 15027 |

2016年産 インペリアルバレー クレイングラス作付面積動向(2016年5月16日時点)

ストロー類(フェスキュー・ライグラス)

先月発表された米国農務省の16年産ライグラスとフェスクの作付面積予想は昨年と同水準から若干の減少となっています。産地であるオレゴン州ウィラメットバレーの収穫は7月から開始される予定です。15年産ライグラスの産地在庫は順調に消化されていますが、例年に比べやや多めで、フェスクは韓国向け中心に出荷は順調のようです。

一方で、産地価格の下落により、生産農家の一部では新穀のストローは収穫をせず畑にすき込んだり、他の換金作物に転作する動きも出てくるかもしれません。

豪州産オーツヘイ

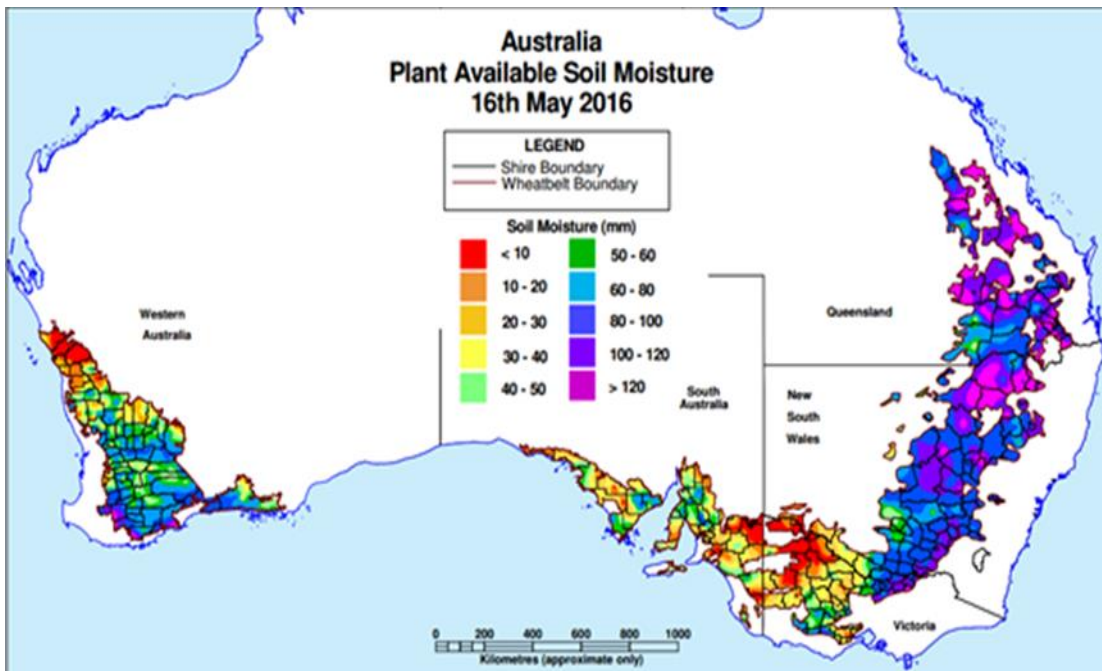
豪州の各産地では新穀に向け準備が進んでいます。

西豪州では播種前に十分な降雨があり、土壌水分は十分で、6月上旬までに播種は完了する見込みです。南豪州及び東豪州は、4月中まで非常に乾燥した気候が続いていましたが、5月に入り数回降雨があり、現在播種の真最中です。今後の天気の長期予測(オーストラリア気象局)によると、どの地域においても平均、もしくは平均以上の降雨があると見込まれています。

新穀の作付面積については、西豪州では平年以上、南、東豪州でも平均並みが見込まれ

ています。背景には小麦やカノーラなどの競合作物がオーツに比べ価格的な魅力がないことから、オーツの作付を一定量確保する動きがあるようです。

旧穀については、引き続き豪州国内及び輸出向けの需要は堅調に続いており、特に中級品以下の供給力は非常に限定的となっています。



(豪州土壤水分図 5月16日現在 出展:オーストラリア気象局)

以上